

第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画

平成30年度 実施計画

No.	1	事業名	自治連合会等活動推進					
部名	市民活動部・市民生活部		課名	地域活動推進課・各出張所・各行政センター				
総合計画上の 位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向	① 地域活動の推進		
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)			地域住民に対し、奈良市自治連合会と協働して、防災防犯、高齢者支援、子どもの見守りといった様々な地域コミュニティ活		
	施策	1-01-01	地域コミュニティの活性化					
相手方の名称	奈良市自治連合会、各地区自治連合会			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	通年			事業開始年度	—			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		14,634		決算額		(単位:千円)	
事業の 概要・目的	地域の対話促進及び地域コミュニティの推進に必要な取組を行う奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、地区調整員による住民自治の促進に向けた地域活動支援により、自治会活動の活性化を促す。							
目標指標	指標名		自治会加入率					
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	78.0	79.0	80.0	81.0	82.0
			実績値	75.1	74.1			
平成30年度 実施計画	これまでに引き続き、奈良市自治連合会及び各地区自治連合会へ交付金を交付するとともに、市内全域に担当の地区調整員を配置し、地区自治連合会を中心とした地域活動の取組みを支援する。 なお、将来的には全地区で自主的な運営がなされるよう意識付けを行っていく必要があり、地区調整員の支援方法を見直して行く。							



平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
		対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	
←	←	→	→		
できた	少しできた	どちらとも言えない	あまりできなかった	できなかった	
		相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
		自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
		目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
		相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
		公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
		期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
		評価点		0	0
		総合点	0	総合評価	
		行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)		A評価	B評価
				C評価	D評価
				E評価	
				90~76	75~61
				60~46	45~32
				31~18	
		行政の意見		協働相手の意見	
協働によって 得られた効果					
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど					

No.	2	事業名	奈良市ボランティアセンターの運営					
部名	市民活動部		課名	協働推進課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向	① ボランティア・NPO活動の活性化		
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)			ボランティア活動の拠点施設として、市民の活動を支援するための奈良市ボランティアセンターの充実を図るとともに、奈良市ボランティアインフォメーションセンターにおいて、より幅広い公益活動に関するきっかけづくりを推進します。		
	施策	1-01-02	市民交流の活性化					
相手方の名称	(社福)奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		14,274		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民の地域福祉活動への積極的な参加促進を図るとともに、さまざまな分野で広がりをもせるボランティア活動を支援し、やさしさとふれあいのある住みよい奈良のまちづくりを目指す。							
目標指標	指標名		利用人数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	21,400	21,675	21,950	22,225	22,500
			実績値	19,904	19,893			
平成30年度実施計画	ホームページや、ボラセンだよりを通してセンターと活動団体の紹介を行い、気軽にセンターを利用してもらう。ボランティアインフォメーションセンターとの連携により、相互に利用を促す。また、利用者アンケートを実施し、今後の取り組みを検討していく。							



平成30年度事業評価		協働の原則に基づいた評価項目							行政の評価	協働相手の評価
		対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。							
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。								
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。								
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。								
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。								
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。								
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。								
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。								
評価点									0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	3	事業名	にぎわいのあるまちづくり事業					
部名	総務部		課名	保健所・教育総合センター管理課及びはぐくみセンター内全課				
総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活		展開方向	① ボランティア・NPO活動の活性化		
	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(地域間交流)			協働によるまちづくりを推進するために、市民や自治会などの市民公益活動団体と行政との役割分担を構築し市民相互の活動を支援します。		
	施策	1-01-02	市民交流の活性化					
相手方の名称	JR奈良駅西地区の自治会			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成23年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		370		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	地域住民と市職員が協働して「にぎわいのあるまちづくり事業」を実施する。この事業は、市場やコンサート、セミナー等などの集客イベントを実施し、多くの市民の方に、はぐくみセンターを知っていただき有効利用していただくこと、地域の活性化を図ること、JR奈良駅西のまちづくりに寄与することを目的とする。							
目標指標	指標名		来館者数の増加					
	単位	千人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	200	210	220	220	220
			実績値	204	219			
平成30年度実施計画	①JR奈良駅西まちづくり協議会(地域住民と職員)において、年間事業計画を決定する。 ②にぎわいのあるまちづくり実行委員会(地域住民と職員)により事業を行う。 コンサート6回、市場3回、セミナー3回、まちづくりセミナー2回、大文字見学会と講演1回 山焼き見学会1回 ③実行委員の意見や来場者のアンケートにより事業の評価を行う。 ④協議会において評価をもとに事業の見直しを行い、来年度の事業計画に繋げていく。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点		0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	4	事業名	男女共同参画活動団体協働事業	
部名	市民活動部		課名	男女共同参画課

総合計画上の 位置付け	章	第1章	市民生活	展開方向	①	あらゆる分野の政策・方針の決定及び実施の場への男女共同参画の推進
	基本施策	1-02	男女共同参画		男女共同参画の視点をもち、あらゆる分野で活躍できる女性の人材の育成と活用 に努めます。	
	施策	1-02-01	男女共同参画社会の実現			

相手方の名称	女性団体等	協働事業の実施手法	共催
実施の時期	通年	事業開始年度	平成17年度

今後の方針		特記事項	
-------	--	------	--

平成30年度事業費	予算額	1,245	決算額		(単位:千円)
-----------	-----	-------	-----	--	---------

事業の概要・目的	男女が互いにその人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を市民参画によりめざす。				
----------	---	--	--	--	--

目標指標	指標名	「市民講座」の受講者アンケートによる満足度を平成32年度を目標に85%にまで上げる。						
	単位	率(満足度)	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	92	70	75	80	85
			実績値	61	66			

平成30年度実施計画	市民団体及び市民グループ企画の市民感覚から発した「市民講座」とすることで市民のニーズに合った講座を開催し、チラシ・ポスター作成、しみんだよりやホームページへの掲載、マスコミ等への広報を行うことで講座の周知を図る。また、参加率やアンケート結果を踏まえ、次回へとつなげる。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 ← できた	4 ← 少しできた	3 → どちらとも 言えない	2 → あまりで きなかった	1 できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点							0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	5	事業名	地域人権教育支援事業		
部名	市民活動部		課名	人権政策課	

総合計画上の位置付け	章	第1章	市民生活	展開方向	①	人権教育の推進
	基本施策	1-03	人権・平和		地域における人権教育の推進を図るため、奈良市人権教育推進協議会と協働・連携します。そして、地域活動としての人権学習を通して人権問題への認識を深めることにより、全市レベルでの市民意識向上に努めます。	
	施策	1-03-01	人権と平和の尊重			

相手方の名称	奈良市人権教育推進協議会			協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和48年度	
今後の方針		特記事項				
平成30年度事業費	予算額		1,458	決算額		(単位：千円)

事業の概要・目的	行政と市民との中間団体である「奈良市人権教育推進協議会」と協働し、地域における人権教育の推進を図り、「奈良市人権文化のまちづくり条例」の具体化を図る。							
目標指標	指標名	活動地区数の増						
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	40	40	40	40	40
			実績値	33	32			

平成30年度実施計画	運営団体のあり方や地区研修会、指導者講座、人権講座等の事業実施についての検討を進め、より自主的な活動を行うよう、また、参加者が増えるよう双方協議しながら改善を図る。 平成29年度から実施している「なるほど！人権講座」を引き続き実施し、地域の中で人権啓発のリーダー的存在になれる人材の育成を目指す。
------------	---



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 4 3 2 1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
← ← → →	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
	評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	6	事業名	地域で決める学校予算事業(学校支援地域本部事業)					
部名	学校教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	① 教育内容の充実		
	基本施策	2-01	学校教育			地域教育協議会の強みを生かし、地域と連携した教育活動支援を推進します。		
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進					
相手方の名称	地域教育協議会			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		87,260		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	中学校区を単位として、地域全体で学校を支援し、子どもたちを守り育てる体制をつくり、子どもたちの教育活動の充実と地域の教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図る。地域と学校が連携・協働し、中学校区で取組む事業と、各学校園で特色のある教育活動を実施するために取組む事業を全中学校区で実施する。							
目標指標	指標名		会計担当者設置校区数					
	単位	校区	年度	H28	H29	H30	9	H32
			目標値	13	15	17	19	21
			実績値	12	12			
平成30年度実施計画	これまでに引き続き、各中学校区地域教育協議会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設定等、地域教育協議会と学校が「目指す子ども像」を共有した上で、連携・協働しながら地域全体で子どもを守り育てる体制づくりを支援する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	7	事業名	教育センター学習事業						
部名	学校教育部			課名	教育支援課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	教育内容の充実	
	基本施策	2-01	学校教育						
	施策	2-01-01	特色のある教育の推進						
相手方の名称	ボランティア団体・NPO法人・民間研究団体				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成23年度			
今後の方針		特記事項							
平成30年度事業費	予算額		19,379		決算額				(単位：千円)
事業の概要・目的	教育センター9階は、キッズ学びのフロアとして、プラネタリウム等の設備を活用し、ものづくり体験教室や理科・科学実験教室、天文教室等を開催することで、子どもたちの豊かな学びを保障し、創造性や探究心を育て、奈良で学んだことを誇らしげに語り、たくましく生きていこうとする子どもを育成する。 平日には、学校園を対象とした「わくわくセンター学習」を、休日には、親子等を対象とした「キッズホリデークラブ」を実施する。								
目標指標	指標名		民間協力団体の数(学校、営利企業等を除く)						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値			9	10	11	
			実績値						

平成30年度実施計画	「わくわくセンター学習」では、学習指導要領の改訂に合わせてプログラミング的思考を育成できる「ロボット教室」や、「キッズホリデークラブ」では、未就学児の参加が多いため親子で体験・制作できる実験や工作の講座を充実させていく。また、ボランティア団体、NPO法人、民間研究団体の協力も得ながら講座内容を充実させていく。市民に向けた広報活動として、ポスターやチラシ、HP、SNSなどを活用し、利用者の利便性を向上させる。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	8	事業名	学校規模適正化検討協議会との協議						
部名	教育委員会事務局			課名	教育総務課				
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	⑤	施設配置の適正化及び施設の長寿命化の検討	
	基本施策	2-01	学校教育				小学校・中学校の規模適正化を実施します。		
	施策	2-01-03	義務教育の充実						
相手方の名称	保護者・地域代表・学校関係者				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成20年度			
今後の方針		特記事項							
平成30年度事業費	予算額		439		決算額			(単位：千円)	
事業の 概要・目的	奈良市学校規模適正化実施方針及び中学校区別実施計画等に基づき、対象地域において市立小・中学校の規模適正化の推進に向け協議し、地域性等を考慮した個性や特色ある学校づくりをめざす。								
目標指標	指標名		規模適正化を必要とする小・中学校						
	単位	校	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	7	4	4	4	0	
			実績値	7	4				

平成30年度実施計画	適正化の対象となる校区(右京小、神功小、鼓阪小、鼓阪北小)において、保護者や地域住民へ中学校区別実施計画(案)後期計画を説明し、統合再編への理解を求めるとともに、保護者・地域住民・学校関係者で構成された「検討協議会」の立上げをめざす。
------------	---



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	9	事業名	放課後子ども教室推進事業					
部名	学校教育部		課名	地域教育課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	②	地域の教育力の充実	
	基本施策	2-02	青少年の健全育成			各小学校区においても、学校・家庭・地域が連携・協働し、子どもたちの安心・安全な居場所を設け、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりを進めます。		
	施策	2-02-01	青少年の健全育成					
相手方の名称	各小学校運営委員会			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成19年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		20,828		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、放課後等に小学校の余剰教室等を活用し、地域の方々の参画を得て活動を進める。勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を、全小学校区で実施する。							
目標指標	指標名	放課後子ども教室の年間実施日数						
	単位	日/校	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	33	34	34	35	35
			実績値	31	31			
平成30年度実施計画	これまでに引き続き、各小学校運営委員会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設定等、各小学校運営委員会、小学校、バンビーホームと連携・協働しながら子どもたちに多様な教育活動を提供するための支援をする。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	10	事業名	青少年野外体験施設の運営管理		
部名	教育総務部		課名	生涯学習課	

総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化	展開方向	③ 青少年健全育成活動の推進 青少年が健やかに成長できる体験の場所や機会を提供します。
	基本施策	2-02	青少年の健全育成		
	施策	2-02-01	青少年の健全育成		

相手方の名称	①奈良市黒髪山キャンプフィールド運営協議会 ②特定非営利活動法人 奈良地域の学び推進機構		協働事業の実施手法	指定管理	
実施の時期	通年		事業開始年度	①平成18年度(指定管理者制度導入年度) ②平成21年度(指定管理者制度導入年度)	
今後の方針		特記事項			
平成30年度事業費	予算額	29,213	決算額		(単位：千円)

事業の概要・目的	自然環境の中での野外活動、レクリエーション等を通じて青少年の心身の健全な育成を図ることを目指す。				
----------	--	--	--	--	--

目標指標	指標名	利用者数の増				
	単位	人	年度	H28	H29	H30
			目標値	12,040	12,080	12,120
			実績値	12,279	12,497	

平成30年度実施計画	指定管理者と協議・連携し、快適な施設と魅力的な事業の提供に努めるとともに、広報の在り方について創意工夫し、利用者数の増を目指す。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
←	←	→	→		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しか できた どちらとも 書えない あまりで きなかつた できなかつた					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点		0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	11	事業名	公民館の運営管理					
部名	教育総務部		課名	生涯学習課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	① 生涯学習活動の推進		
	基本施策	2-03	生涯学習			地域の課題解決に向けた学習活動を含め、市民の多様な学習に対応できる幅広い内容や人材の確保、機会の充実に努めます。		
	施策	2-03-01	生涯学習の推進					
相手方の名称	公益財団法人奈良市生涯学習財団			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		614,771		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	いつでも、どこでも、だれでも学べる学習環境の醸成と整備を促進するとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習活動を推進する。また、市民の生涯学習活動の拠点となる公民館を管理し、市民が健康かつ豊かな生活を送ることができる機会を提供する。							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	610,000	620,000	630,000	640,000	650,000
			実績値	591,696	610,304			
平成30年度実施計画	公民館の事業展開及び施設運営について、市の方針を指定管理者と共有し、協議を行いながら、市民の多様なニーズに応える各種事業を計画・提供するとともに公民館の管理運営を行う。また、地域課題を抽出し解決に向けた取組を行うため、公民館と地域とのつながりを重視し、指定管理者との情報共有に努める。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	12	事業名	おはなし会					
部名	教育総務部		課名	中央図書館				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	② 子どもの読書活動の推進		
	基本施策	2-03	生涯学習			子どもの読書活動に関わる環境の整備・充実に努めます。		
	施策	2-03-02	図書館の充実					
相手方の名称	ボランティア			協働事業の実施手法	共催			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		254		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	図書館において「おはなし会」を開催し、絵本の読み聞かせ・おはなし・パネルシアター・人形劇などを通して、物語などのすばらしさを伝え、子どもの想像力と豊かな感性を育むとともに、読書への興味へと導いて、子どもの健全育成を図る。							
目標指標	指標名		参加人数					
	単位	参加人数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
			実績値	1,590	1,446			
平成30年度実施計画	図書館ホームページやチラシ等で、おはなし会の開催を告知し、参加者増を図る。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	13	事業名	市民考古サポーター活動事業						
部名	教育総務部			課名	文化財課埋蔵文化財調査センター				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化財の保護・啓発		
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承			文化財保護に関わるボランティア・市民活動などの連携を促進する。			
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用						
相手方の名称	寧楽考古楽倶楽部				協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成21年度			
今後の方針		特記事項							
平成30年度事業費	予算額		194		決算額			(単位：千円)	
事業の概要・目的	寧楽考古楽倶楽部は、平成20年度「市民考古サポーター養成講座」の修了者が組織した団体で、発掘調査・遺物整理・展示公開・講演・説明会等、埋蔵文化財調査センターが行う考古学的調査研究、保存活用事業に参加支援し、考古学を自由な立場で楽しみながら学び、その活動を通じ文化財保護へ寄与してもらう。なお、平成28年度からは、史跡大安寺旧境内での発掘調査体験学習を協働で行っている。これに加えて本年度からは富雄丸山古墳の発掘調査体験学習も予定し、更なる埋蔵文化財活用事業の拡充を目指す。								
目標指標	指標名		市民考古サポーターの人員維持						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	85	85	85	85	85	
			実績値	93	99				

平成30年度実施計画	市の事業計画に対応する形で、2ヶ月毎に活動計画を策定し、遺物整理・展示公開・講演会・市民考古学講座・職場体験学習・発掘調査体験学習を実行する。その後各事業ごとに協働内容を確認し、意見・要望を整理したうえで、倶楽部の役員会において担当職員と役員で今後の方向性等を協議する。
------------	---



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	14	事業名	文化財講座					
部名	教育総務部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化財の保護・啓発	
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承			市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実に図ります。		
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	文化財関連団体、公益財団法人奈良市生涯学習財団(都跡公民館)等			協働事業の実施手法	共催			
実施の時期	年2回			事業開始年度	共催での実施は平成27年度から			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		92		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民に広く奈良の文化財を周知し、理解と関心を深めてもらい、保護や活用に積極的に関わる契機として、体験学習・見学等を組み合わせた講座を開催する。							
目標指標	指標名		協働での実施回数					
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3	2	2	2	2
			実績値	3	2			
平成30年度実施計画	従来実施している当該事業の一部を協働で行う。赤膚山元窯保存会との協働では、平成29年度に修理が完了した大型登り窯(登録有形文化財)を活用し、登り窯の見学や解説、窯の入り口をレンガでふさぐ体験を含む講座を実施する。都跡公民館との協働では、公民館に隣接する旧田中家住宅(市指定文化財)を活用し、かまどでの炊飯等の昔の暮らし体験を含む講座を実施する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	15	事業名	史料保存館展示関連見学会					
部名	教育総務部		課名	文化財課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	①	文化財の保護と啓発	
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承			市民が奈良の歴史文化を知る機会となる文化財活用普及事業の充実を図ります。		
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用					
相手方の名称	NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」			協働事業の実施手法	共催			
実施の時期	年4回			事業開始年度	平成28年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		0		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	史料保存館の展示テーマに合わせた市内の現地見学と、史料保存館の展示見学を行い、奈良の歴史文化に対する知識を深め、文化財保護の推進を図る。							
目標指標	指標名		実施回数					
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1	4	4	4	4
			実績値	1	4			
平成30年度実施計画	ホームページやしみんだより、ツイッターに解説付きガイドツアー募集の記事を掲載し、NPO法人なら・観光ボランティアガイドの会「朱雀」の案内で、史料保存館の企画展示及び特別陳列「ならまち歳時記展にゆかりの地を歩く見学会」を行う。あわせて同館職員の解説により史料保存館の展示を見学してもらう。また、参加者アンケートを基に今後の事業内容を検討する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	16	事業名	上深川歴史民俗資料館(指定管理)						
部名	教育総務部		課名	文化財課					
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	③	文化財保存・展示施設の整備		
	基本施策	2-04	文化遺産の保護と継承			史料保存館など文化財保存公開施設の充実を図ります。			
	施策	2-04-01	文化遺産の保存と活用						
相手方の名称	奈良市上深川町自治会			協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和53年				
今後の方針	特記事項								
平成30年度事業費	予算額		206		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	地域の文化財保存公開施設として適切に管理を行い、特に当該地域の特色ある文化財である重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開に寄与する運営を行う。								
目標指標	指標名		重要無形民俗文化財「題目立」の保存公開、施設管理に要する日数						
	単位	日	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	29	28	28	28	28	
			実績値	49	50				

平成30年度実施計画	「題目立」の合同練習、現地公開のために開館する。また見学希望者への公開のために随時開館する。そのほか施設維持管理、収蔵資料の保存等のために毎月定期的に点検等を行う。
------------	--



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。					
	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。					
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。					
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。					
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。					
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。					
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。					
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。					
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。					
	評価点					0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	17	事業名	ならまちわらべうたフェスタ						
部名	観光経済部			課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の 位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	③	伝統文化の普及と継承		
	基本施策	2-05	文化振興			伝統文化の普及のために、市民が伝統文化に触れる機会を提供する等の支援を行います。			
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	文化団体・NPO・財団等			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会				
実施の時期	10月			事業開始年度	平成5年度				
今後の方針		特記事項							
平成30年度事業費	予算額		1,382		決算額				(単位：千円)
事業の 概要・目的	わらべうたは子どもたちによって遊びの中で伝えられ、それぞれの時代の子どもの様子や人々の文化が表現されている。このわらべうたを貴重な無形文化遺産と位置づけ広く継承することと、「ならまち」の地域活性化と文化振興を目的にわらべうたをベースとしたおまつりを開催する。								
目標指標	指標名		ならまちわらべうたフェスタ協力団体数の増加						
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	31	32	40	45	50	
			実績値	35	35				

平成30年度実施計画	例年同様のわらべうたフェスタを開催するとともに、開催地域の拡大(きたまちエリア)を目指し、さらに大きなイベントとする。
------------	---



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
	評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	18	事業名	奈良市西部会館市民ホール(学園前ホール)の運営									
部名	市民活動部			課名	文化振興課							
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化の発信と交流				
	基本施策	2-05	文化振興				市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。					
	施策	2-05-01	文化の振興									
相手方の名称	日本環境マネジメント株式会社				協働事業の実施手法	指定管理						
実施の時期	通年				事業開始年度	平成20年度(指定管理者制度導入年度)						
今後の方針		特記事項										
平成30年度事業費	予算額		40,000		決算額		(単位：千円)					
事業の概要・目的	西部会館市民ホール(学園前ホール)の設置により、市民の連帯感の育成と文化の向上を図るとともに、ふれあい豊かな地域社会づくりをめざす。 指定期間：平成30年4月1日～平成35年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで) 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 西部会館市民ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサート、講演、文化講座など)											
目標指標	指標名		来館者数の増加									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32				
			目標値	40,000	38,000	38,130	38,750	39,375				
			実績値	37,381	35,848							

平成30年度実施計画	指定管理を行う日本環境マネジメント株式会社と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行う。
------------	---



平成３０年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
←	←	→	→		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた	少しでも できた	どちらとも 言えない	あまりで きなかつた	できなかつた	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	19	事業名	北部会館市民文化ホールの運営						
部名	市民活動部			課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化			展開方向	①	文化の発信と交流	
	基本施策	2-05	文化振興				市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興						
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団				協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開始年度	平成20年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針		特記事項							
平成30年度事業費	予算額		32,200		決算額				(単位：千円)
事業の概要・目的	北部会館市民文化ホールの設置により、市民の自主的な文化活動の促進、教養の向上及び健康の保持を図るとともに、市民の福祉の増進に資する。 指定期間：平成30年4月1日～平成35年3月31日 開館時間：午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで) 休館日：月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 北部会館市民文化ホールの業務内容：①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサート、講演など)								
目標指標	指標名		来館者数の増加						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	130,000	134,000	128,600	130,700	132,825	
			実績値	133,895	128,036				

平成30年度実施計画	指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行う。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	←	←	→	→	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	20	事業名	入江泰吉旧居の運営					
部名	市民活動部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	① 文化の発信と交流		
	基本施策	2-05	文化振興			市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人奈良市総合財団				協働事業の実施手法	指定管理		
実施の時期	通年				事業開始年度	平成26年度(指定管理者制度導入年度)		
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		10,500		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	入江泰吉旧居の設置により、奈良を愛した写真家入江泰吉の旧居を保存活用し、その業績の顕彰を図り、もって奈良を愛する心を育むとともに、文化の向上に資する。 指定期間：平成27年3月1日～平成31年3月31日 開館時間：午前9時半から午後5時まで(ただし入館は午後4時半まで) 休館日：月曜日、休日の翌日 入江泰吉旧居の業務内容：①旧居の一般公開、②入江泰吉及び写真に関する事業の開催							
目標指標	指標名		来館者数の増加					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値			6,100	6,200	6,300
			実績値	7,033	5,923			
平成30年度実施計画	指定管理を行う一般財団法人奈良市総合財団と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運営を行う。							



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。								
54321 ←←→→ できた少しできたどちらとも言えないあまりできなかったできなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。								
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。								
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。								
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。								
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。								
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。								
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。								
評価点									0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	21	事業名	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」					
部名	市民活動部		課名	文化振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	④ 「東アジア文化都市」事業主旨に基づく施策の実践		
	基本施策	2-05	文化振興			文化庁との共催事業である「東アジア文化都市」事業をはじめ、文化でまちを豊かにする施策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	奈良市アートプロジェクト実行委員会			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成29年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		16,004		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	「東アジア文化都市2016奈良市」の成果を引き継ぐため、平成28年12月に「奈良市アートプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、社会課題をアートによって掘り下げ、新たな価値につなげていくための取り組みを進めることになりました。							
目標指標	指標名		事業満足度(大変良いと良いの合計)					
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値		80	80	80	80
			実績値		88			

平成30年度実施計画	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」事業を進めるにあたって、実行委員会と十分に協議しながら事業を遂行する。
------------	--



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点			0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	22	事業名	奈良市都祁交流センターの運営					
部名	市民生活部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	① 文化の発信と交流		
	基本施策	2-05	文化振興			市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文化政策を推進します。		
	施策	2-05-01	文化の振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		30,000		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民の文化振興と福祉の増進を図るとともに、地域間・世代間交流を促進するための文化活動の拠点となる施設の管理を行う。							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	16,000	16,100	16,200	16,300	16,400
			実績値	20,456	16,057			
平成30年度実施計画	指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図り、市民に良質なサービスを提供できるよう支援を行う。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	23	事業名	奈良市都祁生涯スポーツセンターコート等4施設の運営					
部名	市民活動部		課名	スポーツ振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	—		
	基本施策	2-06	スポーツ振興			—		
	施策	2-06-01	スポーツの振興			—		
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度(8月供用開始)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		9,900		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民がスポーツに親しみ健康で明るく豊かな生活を営むことができるよう、安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	19,500	20,000	20,500	21,000	21,500
			実績値	15,711	17,731			
平成30年度実施計画	案内パンフレット等を配布し、利用者増加及び利用者の地域拡大を図る。まただれでも気軽に参加しやすい自主事業を展開し、その活動に参加する等をして集めた意見を基に、今後の自主事業内容を検討する。7財団を都合したことによってもたらされる総合力をもってトータルのスケールメリットを発揮していく。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	24	事業名	奈良市都祁体育館の運営					
部名	市民生活部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第2章	教育・歴史・文化		展開方向	②	生涯スポーツの推進	
	基本施策	2-06	スポーツ振興					
	施策	2-06-01	スポーツの振興					
相手方の名称	一般財団法人 奈良市総合財団			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		63,000		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	健康で生きがいを持って暮らせるよう、生涯スポーツ宣言地域としてスポーツ・レクリエーションを通じて健康を維持・推進できるよう安全・安心なスポーツ施設の管理運営を行う。							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700
			実績値	9,072	10,059			
平成30年度実施計画	指定管理者と情報共有や十分な協議を行いながら、自主事業の充実を図り、市民に良質なサービスを提供できるよう支援していく。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	25	事業名	地域福祉活動の支援事業					
部名	福祉部		課名	福祉政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉	展開方向	②	地域福祉活動の推進		
	基本施策	3-01	地域福祉		地域ごとに作成する地域福祉活動計画の策定を奈良市社会福祉協議会と協働して推進します。			
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	地区社会福祉協議会			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成16年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		0		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	地域住民の立場から地域特性にあった「地域福祉活動計画」を作成し、住民の福祉活動への理解や参加を促し、住みよい生活環境づくりを実現する。現在46の地区社会福祉協議会があり、住民自治に根ざした地域住民と行政の対等なパートナーシップのもと、連携・協働による福祉のまちづくりをめざす。							
目標指標	指標名		地域福祉活動計画の策定地区数					
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	20	26	32	38	46
			実績値	20	25			
平成30年度実施計画	地区社協等の地域福祉に関する活動を行う方々が、共通の目標を持ち計画的に福祉のまちづくりに取り組んでいくことができるよう、地域福祉活動計画を策定する。未策定地区については、策定実施に向け積極的に働きかけをする。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	26	事業名	奈良市月ヶ瀬福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉	展開方向	③	地域福祉推進体制の充実		
	基本施策	3-01	地域福祉		地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。			
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		29,200		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	25,500	25,600	25,700	25,800	25,900
			実績値	25,248	24,254			
平成30年度実施計画	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行う。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 ← できた	4 ← 少 し で き た	3 → ど ち ら と も 言 え な い	2 → あ ま り で き な か つ た	1 → で き な か つ た	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点							0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	27	事業名	奈良市都祁福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉	展開方向	③	地域福祉推進体制の充実		
	基本施策	3-01	地域福祉		地域福祉推進に係る各種団体との連携を充実します。			
	施策	3-01-01	地域福祉の推進					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		32,700		決算額		(単位:千円)	
事業の概要・目的	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、市民の福祉の向上に資する。							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	30,100	30,200	30,300	30,400	30,500
			実績値	27,328	30,554			
平成30年度実施計画	市民の福祉活動の振興及び健康の増進を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、指定管理で、奈良市社会福祉協議会において福祉センターの施設運営を行う。							



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の 評価	協働相手の 評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。								
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。								
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。								
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。								
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。								
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。								
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。								
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。								
評価点									0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	28	事業名	奈良市子ども会議開催事業						
部名	子ども未来部			課名	子ども政策課				
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	②	子育て中の親子の居場所づくり		
	基本施策	3-02	子育て			子育てに関する情報について広く周知し、子育て世代が奈良市に住みたい、住み続けたいと感じるまちづくりを目指します。			
	施策	3-02-01	子育て支援の推進						
相手方の名称	市民(原則10～17歳の子ども)			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度				
今後の方針		特記事項							
平成30年度事業費	予算額		900		決算額		(単位：千円)		
事業の 概要・目的	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」は、子どもたちが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるように、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的とする。そのためこの条例で規定している子どもが意見表明をし、参加する場として「奈良市子ども会議」を開催する。								
目標指標	指標名		奈良市子ども会議参加者の意見表明に対する満足度						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	80	85	90	95	100	
			実績値	79.6	80.1				

平成30年度実施計画	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」に基づき、4回目となる「奈良市子ども会議」を開催する。開催の詳細については、市の附属機関である「奈良市子ども・子育て会議」での審議を踏まえ、進めていく。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	29	事業名	子育て親子の集える場の提供					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	② 子育て中の親子の居場所づくり		
	基本施策	3-02	子育て			子育て親子の交流の促進や育児相談等ができる地域子育て支援拠点で、地域支援活動の取組を積極的に行い、事業の充実を図ります。		
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	子育て支援団体(社会福祉法人、NPO法人等) 地区民生児童委員協議会・地区社会福祉協議会等				協働事業の実施手法	委託		
実施の時期	通年または月1・2回				事業開始年度	平成5年度		
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		136,480		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	子育て親子(おおむね0～3歳児とその親)を対象に、交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談及び援助の実施、地域の子育て関連情報の提供、子育て及び子育て支援に関する講習等の多様な子育て支援活動を実施する。							
目標指標	指標名		子育て中の親子の集える場の利用者数の増加					
	単位	人(年間延べ人数)	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	151,000	164,000	177,000	190,000	190,000
			実績値	159,359	160,874			
平成30年度実施計画	子育て親子の集える場において、多様な子育て支援活動を実施し、地域全体で子どもの育ち・親の育ちを支援する。一部の地域子育て支援拠点においては、より利用者に寄り添った支援を実施する。							



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の 評価	協働相手の 評価			
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。											
	5 4 3 2 1 ← → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。										
		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。										
		自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。										
		目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。										
		相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。										
		公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。										
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。										
		期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。										
評価点								0	0				
総合点		0		総合評価									
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)				A評価		B評価		C評価		D評価		E評価	
				90～76		75～61		60～46		45～32		31～18	
行政の意見						協働相手の意見							
協働によって得られた効果													
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど													

No.	30	事業名	子育て支援アドバイザー					
部名	子ども未来部		課名	子ども育成課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	⑤ 子育ての相談窓口		
	基本施策	3-02	子育て			子育て親子にとって身近な場所で、子育てに関する相談や情報提供を行うとともに、関係機関と連携し、子育て支援の機能強化を図ります。		
	施策	3-02-01	子育て支援の推進					
相手方の名称	個人ボランティア及び子育て支援団体			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	随時			事業開始年度	平成18年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		1,224		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	地域の子育て経験豊かな市民を「子育て支援アドバイザー」として登録し、子育て親子が集まる場所に派遣し、子育てに関する相談、助言、情報提供を行い、親の育児の負担感や不安感を軽減する。また、絵本の読み聞かせ、手遊び、親子体操等、子育て支援アドバイザーができる範囲で支援を行う。 なお、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に、事業を委託している。							
目標指標	指標名		子育て支援アドバイザーの派遣回数の増加					
	単位	回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	500	500	500	500	500
			実績値	552	537			
平成30年度実施計画	アドバイザーの活動内容を3区分に分類し、依頼元のニーズに沿った派遣を行うとともに、地域子育て支援拠点交流会等を実施し、アドバイザーと地域との交流・連携を深める。また、引き続きアドバイザー事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、事務の効率化と事業内容の充実を図る。							



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目							行政の 評価	協働相手の 評価			
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。										
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。										
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。										
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。										
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。										
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。										
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。										
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。										
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。										
評価点								0	0			
総合点		0						総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)								A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
								90～76	75～61	60～46	45～32	31～18
行政の意見					協働相手の意見							
協働によって得られた効果												
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど												

No.	31	事業名	ファミリー・サポート・センター事業									
部名	子ども未来部				課名	子ども育成課						
総合計画上の 位置付け	章	第3章	保健福祉			展開方向	③	子どもの預り				
	基本施策	3-02	子育て				多様化する家庭環境に対応するため、保護者が一時的に子どもの養育が困難になった場合、安心して子どもを預けることができる子育て支援サービスの充実を図ります。					
	施策	3-02-01	子育て支援の推進									
相手方の名称	個人ボランティア及び市内で活動する法人				協働事業の実施手法		委託					
実施の時期	随時				事業開始年度		平成16年度					
今後の方針		特記事項										
平成30年度事業費	予算額		10,782		決算額					(単位：千円)		
事業の 概要・目的	「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行っている。 なお、事業の運営については、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、市内で活動する法人に委託している。											
目標指標	指標名		ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数									
	単位	件	年度	H28	H29	H30	H31	H32				
			目標値	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000				
			実績値	6,695	6,682							

平成30年度実施計画	通常援助活動に加え、平成30年10月から、妊娠中や出産後の家庭にホームヘルパーを派遣し、家事や育児の援助を行う。また、同じく平成30年10月から、多子世帯及びひとり親家庭等が事業を利用した場合に利用料の一部を助成する。
------------	---



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
←	←	→	→		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	32	事業名	視覚障がい者向け広報等発行事業					
部名	福祉部		課名	障がい福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	② 障がい者の社会参加と自立支援		
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉			障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。		
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	ボランティア団体			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和57年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		739		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	視覚障害者の内、希望者にしみんだよりなどの広報の点字版や録音版を製作し配布する。							
目標指標	指標名	活動の育成						
	単位	ボランティアの人数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	60	60	60	60	60
			実績値	60	60			

平成30年度実施計画	市は点訳ボランティア及び録音ボランティアに総合福祉センターの一室と紙や録音テープ、機材を提供し、ボランティアは市の広報誌等の点字版、録音版を作成、希望する視覚障害者に配布する。また障害者の地域生活を支援するボランティアを育成する。
------------	---



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
	評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	33	事業名	奈良市総合福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	障がい福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	② 障がい者の社会参加と自立支援		
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉			障がい者があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした啓発、広報等の充実を図るとともに、スポーツ・文化活動の振興を図ります。		
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		180,900		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	障害者のための施策その他社会福祉施策の総合的な推進及び社会福祉活動の育成を図り、もって市民の福祉の増進に資するために設置された総合福祉センターを運営する。							
目標指標	指標名	施設の利用者数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000
			実績値	84,859	90,945			
平成30年度実施計画	障害者福祉及び市民の福祉活動の振興を図り、もって市民の福祉の向上に資するため、奈良市社会福祉協議会を指定管理者として総合福祉センターの施設運営を行う。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	34	事業名	奈良市子ども発達センター					
部名	子ども未来部		課名	子育て相談課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	① 障がい者福祉サービスの充実		
	基本施策	3-03	障がい者・児福祉			発達の遅れや障がいのある子どもと保護者に対し、相談や療育を行うため、子ども発達センターの事業の充実を図るとともに、医療機関や教育機関などと協力して支援の充実に努めます。		
	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の充実					
相手方の名称	(社会福祉法人) 宝山寺福祉事業団			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成23年度(指定管理制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		26,509		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	奈良市子ども発達センターで児童発達支援を行う。							
目標指標	指標名	当該年度に児童発達支援を利用した幼児の実数						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	60	60	60	60	60
			実績値	48	55			
平成30年度実施計画	<発達支援> 児童発達支援 <地域支援> ①幼稚園等への訪問による指導 ②事業所支援 ③自主事業(親子教室)(公開療育)							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	35	事業名	認知症サポーター養成講座					
部名	保健福祉部		課名	福祉政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	② 高齢者福祉サービスの充実		
	基本施策	3-04	高齢者福祉			認知症の人も介護者も住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携を図り、地域全体で認知症の人とその家族を支えるネットワークを構築し、総合的かつ継続的な支援を推進します。		
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実					
相手方の名称	地域包括支援センター職員を含むキャラバンメイト			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		401		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	国の認知症サポーター100万人キャラバン事業に基づき、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの養成や、その養成のための講師となるキャラバン・メイトの活動を支援する。							
目標指標	指標名	認知症サポーターを5ヶ年で約12,000名を養成予定、その後継続して実施						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	14,200	16,500	18,900	23,100	17,000
			実績値	14,037	17,908			
平成30年度実施計画	これまでは、地域包括支援センター職員の中のキャラバンメイトとの協働で事業を実施していたが、30年度からは、地域包括支援センター職員以外のキャラバンメイトがメイトとしての活動ができる(地域包括支援センターのキャラバンメイトとも協働できる)よう、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターとの事業展開を模索し、実施していく。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	36	事業名	奈良市老人福祉センターの運営					
部名	福祉部		課名	長寿福祉課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	③ 高齢者福祉施設の整備		
	基本施策	3-04	高齢者福祉			老人福祉センターにおける高齢者の各種相談、健康の増進・介護予防の推進、生きがいづくりと社会参加を推進します。		
	施策	3-04-01	高齢者福祉の充実					
相手方の名称	(福)奈良市社会福祉協議会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		129,489		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	高齢者の心身の健康保持及び増進を図るとともに、地域における交流の場として便宜を供与することによって生きがいづくりに寄与し、もって高齢者の福祉に資するため、東・西・南・北4箇所の老人福祉センターを運営する。							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	192,000	194,000	196,000	198,000	200,000
			実績値	190,319	182,883			
平成30年度実施計画	施設の老朽化に伴う故障等により施設の一部が使用不可能となる事態が多発することが予想されるため、迅速な情報共有を行うことで利用者への影響を最小限にとどめ、利用者のニーズを逃さないようにする。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	37	事業名	奈良市立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療事業課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	① 地域医療体制の充実		
	基本施策	3-05	医療			東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。		
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		39,800		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名		診療所利用者数					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値					
			実績値	18,188	17,467			
平成30年度実施計画	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	38	事業名	奈良市立柳生診療所・田原診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療事業課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	① 地域医療体制の充実		
	基本施策	3-05	医療			東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。		
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		26,245		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名		診療所利用者数					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値					
			実績値	6,549	6,138			
平成30年度実施計画	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 ← できた	4 ← 少し できた	3 → どちら とも 言え ない	2 → あま りで きな かつ た	1 → で き な か つ た	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点							0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	39	事業名	奈良市立興東診療所の運営					
部名	健康医療部		課名	医療事業課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	① 地域医療体制の充実		
	基本施策	3-05	医療			東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に努める。		
	施策	3-05-01	医療の充実					
相手方の名称	公益社団法人 地域医療振興協会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成28年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		10,000		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接種等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)							
目標指標	指標名		診療所利用者数					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値					
			実績値	322	427			
平成30年度実施計画	指定管理者との管理運営協議会を設置し、情報共有を行うことでより良い診療所運営を行う。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	40	事業名	20日ならウォーク
部名	健康医療部	課名	保健所健康増進課

総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉	展開方向	②	成人保健事業の推進
	基本施策	3-06	保健		運動習慣づくりや食生活改善、禁煙等生活習慣病発症の予防を目的とした健康教育・健康相談など身近な保健サービスを提供し、一人ひとりの健康づくりを支援するほか、市民・民間・行政が一体となって健康づくりに取り組む体制づくりを行います。	
	施策	3-06-01	健康づくり推進			

相手方の名称	奈良市運動習慣づくり推進員協議会		協働の形態	委託	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度	
今後の方針		特記事項			
平成30年度事業費	予算額	240	決算額		(単位：千円)

事業の概要・目的	奈良市運動習慣づくり推進員との協働で、毎月20日に市内をウォーキングする。効果的なウォーキング方法の啓発及び運動習慣の定着を支援し、生活習慣病予防につなげる。				
----------	---	--	--	--	--

目標指標	指標名	奈良市運動習慣づくり推進員協議会主催実施回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	11	11	11	11	11
			実績値	10	10			

平成30年度実施計画	年1回のウォーキングイベント及び、年10回の屋外ウォーキングを開催する。また、活動計画や評価について検討会議を行う。
------------	--



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点			0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	41	事業名	奈良市総合医療検査センターの運営					
部名	健康医療部		課名	医療事業課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向	—		
	基本施策	3-06	保健福祉			—		
	施策	3-06-01	健康づくりの推進			—		
相手方の名称	一般社団法人 奈良市医師会			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成28年度(当該指定管理開始年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		4,021		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民の日常の健康増進、疾病の予防及び発見、リハビリテーションまでの包括的な保健医療サービスを効果的に提供するため総合医療検査センターを設置し、人間ドッグ、がん検診及び定期健康診断等の検診事業並びに食事栄養指導、運動指導及び健康講座等の健康増進事業等を実施する。							
目標指標	指標名		センター利用件数					
	単位	件	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	127,500	128,000	128,500	129,000	129,500
			実績値	131,806	135,528			
平成30年度実施計画	市民の健康の保持・増進、疾病の早期発見及び予防の推進のため、検診受診者の拡大を図るとともに検査事業においては精度管理に努める。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	←	←	→	→	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	42	事業名	奈良市食育ネット事業					
部名	健康医療部		課名	医療政策課				
総合計画上の位置付け	章	第3章	保健福祉		展開方向			
	基本施策	3-06	保健福祉					
	施策	3-06-01	健康づくりの推進					
相手方の名称	ボランティア団体、大学、職能団体、飲食店、企業、生産者団体等			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		2,107		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	食育基本法及び奈良市食育推進計画に基づき、家庭や地域、学校、事業所等の連携・協働を促進することで市民が「食」を通じて健全な心と体を培い、健康で豊かな生活が送れるまちづくりに資することを目的とする。 平成30年度より、「奈良市食育ネット」と改め、規約を改正し、より参加団体が主体的に活動できるよう、行政はサポートする役割を担う。							
目標指標	指標名		奈良市食育ネット参加団体数					
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	35	45	50	55	60
			実績値	43	48			
平成30年度実施計画	5月に食育ネット設立総会・交流会を開催する。設立総会では、規約を全面改正し、代表・副代表、幹事を決め、事業計画を決定する。交流会では、複数名から取組報告を行い参加者と意見交換を行う。秋ごろに食育ワークショップを開催し、今後5年間の取組について企画をだしあい、第3次奈良市食育推進計画に反映させる。随時幹事会を開催し、企画について話し合い必要事項について協議する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	43	事業名	住まいの耐震化のすすめ						
部名	都市整備部		課名	建築指導課					
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	①	災害に強い都市基盤の整備		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			既存木造住宅の耐震診断及び耐震改修並びに特定既存耐震不適格建築物の耐震診断の普及を通じて市民意識の向上を図り、建築物の耐震化を促進する。			
	施策	4-01-01	総合的な危機管理						
相手方の名称	特定非営利活動法人『人・家・街安全支援機構』		協働事業の実施手法	後援					
実施の時期	申し出により、随時		事業開始年度	平成22年度					
今後の方針	特記事項								
平成30年度事業費	予算額		0		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	今後予想される南海トラフ巨大地震等に備え、昭和56年以前の旧建築基準法により建築された住宅・建築物の安全性について、適切な知識・情報を市民に提供するとともに建築物の損傷・倒壊等を未然に防止するための耐震改修工事等の必要性を伝える。								
目標指標	指標名		講演会の開催回数						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	1	1	1	1	1	
			実績値	0	0				
平成30年度実施計画	講演会開催の記事をしみんだよりおよびホームページに掲載し、案内する。								



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。						
	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。						
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。						
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。						
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。						
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。						
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。						
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。						
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。						
	評価点						0	0
総合点		0		総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)				A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
				90～76	75～61	60～46	45～32	31～18
行政の意見				協働相手の意見				
協働によって得られた効果								
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど								

No.	44	事業名	自主防災防犯組織活動					
部名	総合政策部		課名	危機管理課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	②	防災意識の高揚	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			自主防災組織の結成率向上、子育て世代の加入促進など組織強化への支援、防災士の育成支援等、組織体制の充実・活性化に努め、防災意識の高揚を図ります。		
	施策	4-01-01	総合的な危機管理					
相手方の名称	市民、自治会(自主防災防犯組織)			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		19,185		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	各地区の自主防災防犯組織の均一的な活性化を図るため、自主防災防犯組織が行う防災訓練、経緯集会を支援し、防災士育成、資機材購入等に要する経費について、資金的支援として活動交付金を交付する。							
目標指標	指標名	各地区自治連合会等を基本とした自主防災防犯組織の結成率						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	98	100	100	100	100
			実績値	100	100			
平成30年度実施計画	自主防災防犯組織に自主防災防犯組織活動交付金を交付し、防災訓練、研修会の支援を行い、また、必要に応じて、防災訓練や防災防犯講演会に職員を派遣する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	45	事業名	独り暮らし高齢者世帯防火訪問					
部名	消防局		課名	予防課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	②	防火、防災における市民等との協働の推進	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			女性防災クラブとの協働による一般家庭防火訪問(住宅用火災警報器の普及促進と出火防止対策)の実施等防火対策の推進と、自力避難困難者収容施設への査察の強化を図ります。		
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実					
相手方の名称	奈良市女性防災クラブ			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	昭和46年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		10		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	火災時に死傷者の発生する割合の高い高齢者世帯に対する防火啓発により住宅火災の防止、被害の減少を図ることを目的とする。 そのために、70歳以上の独り暮らし高齢者世帯を対象に防火訪問を実施する。							
目標指標	指標名	女性防災クラブ員一人当たり訪問回数の増						
	単位	一人当たり訪問回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1.3	1.7	1.8	1.9	2.0
			実績値	1.6	1.8			
平成30年度実施計画	各女性防災クラブのクラブ員が、それぞれの地域の独り暮らし高齢者世帯の防火訪問を実施する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	46	事業名	応急手当普及啓発活動事業									
部名	消防局			課名	救急課							
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	②	防火、防災における市民等との協働の推進				
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全(防災・消防・防犯・交通安全)				市民を対象とした応急手当普及啓発活動を推進します。					
	施策	4-01-02	消防・救急救助体制の充実									
相手方の名称	市内在住・在勤者					協働事業の実施手法	事業協力					
実施の時期	通年					事業開始年度	平成6年度					
今後の方針		特記事項										
平成30年度事業費	予算額		648		決算額					(単位：千円)		
事業の概要・目的	応急手当講習会を受講してもらうことにより、応急手当の必要性を認識していただき、病院前救護の充実を図る。											
目標指標	指標名		市民の4人に1人が応急手当講習修了者となること									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32				
			目標値	3,360	3,360	3,593	3,360	3,360				
			実績値	2,521	2,103							

平成30年度実施計画	各種事業所・各種団体及び自治会等に対して応急手当講習会の受講を推進し、また、応急手当講習会の広報を継続して行い、各種イベントを通じて応急手当の展示と講習会の広報を実施する。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	47	事業名	放置自転車対策の推進					
部名	市民生活部		課名	交通政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③ 放置自転車対策		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			駅周辺の放置自転車の撤去を強化することにより、道路交通の安全と円滑化を図ります。		
	施策	4-01-03	交通安全の確保					
相手方の名称	地元商店街			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成23年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		0		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	商店街の方々の協力を得て、自転車等放置禁止区域内にある商店街に放置されている自転車等の一掃をめざす。							
目標指標	指標名	市内放置禁止区域内の放置自転車等の減						
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	2,080	2,060	2,040	2,020	2,000
			実績値	1,876	1,653			
平成30年度実施計画	(社)奈良市商店街振興会に放置自転車等の情報を提供し、商店街と協力して、放置自転車等の移動をおこなう。自転車等放置禁止区域の周知啓発をおこなう。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	48	事業名	奈良市自転車駐車場の運営					
部名	市民生活部		課名	交通政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③ 放置自転車対策		
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図るため、民間活力を利用し、駅周辺に自転車駐車場を充実させます。		
	施策	4-01-03	交通安全の確保					
相手方の名称	事業者(ミディ総合管理株式会社)			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		68,493		決算額		(単位: 千円)	
事業の概要・目的	市内の駅周辺における自転車等の駐車秩序を確立することにより、街の美観を維持するとともに、自転車利用者の駐車の利便を図る。							
目標指標	指標名		自転車利用者の利便性を高め、道路交通の安全と円滑化を図る					
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360
			実績値	3,360	3,360			
平成30年度実施計画	指定管理者と連絡調整を行いながら、施設のより良い運営に努める。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	49	事業名	地域防犯活動推進事業					
部名	総合政策部		課名	危機管理課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	③	地域の防犯力の強化	
	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・防犯・交通安全)			防犯意識の普及及び防犯施策を推進することにより、犯罪や事故等のない明るく住みよい地域社会を推進する。		
	施策	4-01-04	防犯力の充実					
相手方の名称	市民・自治会・自主防犯組織・事業者			協働の形態	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成21年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		994		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。							
目標指標	指標名		防犯教室実施回数					
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	8	11	14	17	20
			実績値	8	12			

平成30年度実施計画	奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、市民が自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯組織などの団体を対象とした防犯教室を実施する。
------------	--



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点			0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	50	事業名	奈良市地球温暖化対策地域協議会					
部名	環境部		課名	環境政策課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	② 地球温暖化対策の推進		
	基本施策	4-02	環境保全			奈良市地球温暖化対策地域協議会等を通じ、市民、事業者、行政等あらゆる主体が協働し、環境教育、エコバッグの普及等3Rの推進や公共交通機関の利用促進及び省エネを実践できる仕組みづくりなど温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化対策の推進に取り組みます。		
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築					
相手方の名称	市民・NPO・事業者など			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成21年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		628		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民(個人・団体)、NPO、事業者、学識経験者、行政などが対等な立場で和をもって協議を行い、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進し、環境(エコロジー)も経済(エコミー)も持続可能な社会をめざす。							
目標指標	指標名		環境行事実施回数					
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	20	23	25	27	30
			実績値	24	24			
平成30年度実施計画	温室効果ガス排出削減に向け、市民・市民団体・事業者等と協働し、省エネ・創エネ(市民の省エネへの取組を支援する)、3R(レジ袋有料化の取組)、公共交通、環境教育等の様々な分野で活動を展開する。また、設立から10年の節目を迎え、会の活性化を見据えた体制の見直しも行っていく。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点		0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	51	事業名	ECOキッズ！ならの子ども						
部名	環境部			課名	環境政策課・学校教育課				
総合計画上の 位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	①	環境保全行動の推進		
	基本施策	4-02	環境保全			子どもから大人までそれぞれの発達段階に応じた環境教育を推進することにより、一人ひとりが自発的に気付き、学び、行動する心を育成します。			
	施策	4-02-01	環境にやさしい社会の構築						
相手方の名称	市民・市民団体等			協働事業の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成25年度				
今後の方針		特記事項							
平成30年度事業費	予算額		1,505		決算額				(単位：千円)
事業の 概要・目的	次世代を担う子ども達に環境問題や省エネ・節電などライフスタイルに対する気づきを与え、環境保全を推進する人材を育成するため、市立全小学校3年生を対象に、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関する出前授業を行う。								
目標指標	指標名		夏・冬休みに家庭で取り組むエコチャレンジを実施した割合						
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	100	100	100	100	100	
			実績値	92	89				

平成30年度実施計画	市立小学校3年生全クラスを対象として、省エネルギーや地球温暖化防止など環境に関する出前授業を実施する。カリキュラムについては、これまでに実施した市立小学校からの意見を参考に、推進部会を開催し改善をしていく。出前授業実施後には、定着を図るための振り返りとして、エコライフに関する6つの項目について家庭で取り組むエコチャレンジを夏・冬休みに実施する。また、昨年度より新たに導入した夏休み後のフォローアップ講座(2回講座)の実施数の拡大や、新たな講座の導入など事業の充実を図る。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	52	事業名	アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」					
部名	市民活動部		課名	協働推進課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① 環境美化活動の推進		
	基本施策	4-03	生活・環境衛生			アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。		
	施策	4-03-01	環境美化の推進					
相手方の名称	自治会・ボランティア団体・事業者等			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		3,137		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民の方々による身近な道路、河川等の公共施設の美化活動を通して地域コミュニティの再生を図る。							
目標指標	指標名		活動団体の増					
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	64	66	83	85	87
			実績値	60	81			
平成30年度実施計画	ホームページやしみんだより、情報誌「りろば」を通して参加団体を募集し、市の支援として、報奨金10,000円、ごみの回収、90Lのごみ袋の提供、ボランティア活動保険への加入を行う。また、報奨金を希望しない団体は、ごみ袋45L及び90Lの支給、ごみの回収、ボランティア活動保険への加入を行う。活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や活動の推進・拡大を図っていく。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することによって課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	53	事業名	佐保川清掃					
部名	環境部		課名	まち美化推進課				
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① 環境美化活動の推進		
	基本施策	4-03	生活・環境衛生			アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによる道路、河川等の公共施設の美化活動を支援します。		
	施策	4-03-01	環境美化の推進					
相手方の名称	佐保川清掃対策委員会			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	春			事業開始年度	昭和34年			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		0		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	地域住民の方々のボランティア活動により佐保川の美化活動を行う。							
目標指標	指標名		美化活動への参加人数					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,500	1,500	1,500	1,550	1,550
			実績値	1,200	1,200			
平成30年度実施計画	地域住民のボランティア活動による佐保川の美化活動を推進するため、前年に引き続きごみの収集・運搬処理の支援を行う。							



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。								
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。								
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。								
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。								
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。								
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。								
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。								
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。								
評価点									0	0



総合点		0		総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)				A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
				90～76	75～61	60～46	45～32	31～18
行政の意見				協働相手の意見				
協働によって得られた効果								
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど								

No.	54	事業名	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業		
部名	健康医療部		課名	生活衛生課	

総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境	展開方向	②	人と動物がともに暮らせるまちづくり事業 狂犬病に対する認識や動物愛護の意識の高揚に努めるとともに動物の正しい飼い方を啓発し、人と動物が良きパートナーとして共に暮らせるまちづくりを推進する
	基本施策	4-03	生活・環境			
	施策	4-03-02	生活・環境衛生の向上と増進			

相手方の名称	自治会			協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	通年			事業開始年度	平成15年度	
今後の方針		特記事項				
平成30年度事業費	予算額		59	決算額		(単位：千円)

事業の概要・目的	自治会を通じて動物の適切な飼い方に関するポスターを配布し掲示してもらうとともに、地域住民との意見交換を行い、良い意見を反映させていくことで、飼い主のマナー啓発に努める							
目標指標	指標名	ポスター配布枚数						
	単位	枚	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	800	800	800	800	800
			実績値	451	575			

平成30年度実施計画	動物の飼い方に関する苦情・相談を集約・整理しながら、市の各自治会と連携し、動物の適切な飼い方についてのポスターを配布する。そのうえで、動物に関する迷惑行為防止の取り組みについて意見交換を行い、有効な取り組みについては市全体に発信するなど、人と動物がともに暮らせるまちづくりを推進する取り組みを自治会と協議で構築する。
------------	--



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点			0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	55	事業名	環境フェスティバル、ならクリーンフェスタ		
部名	環境部		課名	廃棄物対策課	

総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境	展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの推進
	基本施策	4-04	廃棄物処理		ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。	
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理			

相手方の名称	市民・市民団体・奈良市手をつなぐ親の会		協働事業の実施手法	共催	
実施の時期	通年		事業開始年度	平成6年度	
今後の方針		特記事項			
平成30年度事業費	予算額	164	決算額		(単位：千円)

事業の概要・目的	全国的に制定されている環境月間や3R(スリーアール)推進月間などの契機に、本市の取組として廃棄物に関する問題意識の高揚とごみ減量・リサイクル促進の必要性を訴えるため、啓発活動の一環として開催する。							
目標指標	指標名	イベントへの参加者数の増加						
	単位	人／回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回	6,000人/2回
			実績値	3,000人/1回	3,000人/1回			

平成30年度実施計画	しみんだより及びホームページ並びにごみ分別アプリ等を活用してリサイクルフリーマーケット出店者を公募し、多数の応募者から抽選を行い、市民団体には準備段階から関わっていただく。イベント当日は、プリマ当選した市民へスペースを提供し、市民団体には各々の特性を活かした3Rへの啓発を展開する。また、奈良市手をつなぐ親の会においては、会場にてリユース(再使用)家具並びにリサイクル自転車等の販売を行う。
------------	---



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
←	←	→	→		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた	少 し で き た	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り で き な か っ た	で き な か っ た	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点			

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	56	事業名	ごみ減量キャラバン									
部名	環境部				課名	廃棄物対策課						
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境			展開方向	①	ごみ減量・リサイクルの推進				
	基本施策	4-04	廃棄物処理				ごみの2R施策に重点を置いた啓発活動として、各種市民団体と連携・協議した広報及び啓発活動を展開し、家庭系ごみの減量を図ります。また、ごみの排出事業者等に対し、関係法令に則った指導・啓発を強化し、不適正なごみの搬入を抑制することにより、事業系ごみの減量を図ります。					
	施策	4-04-01	一般廃棄物の処理									
相手方の名称	ごみ懇談会等				協働事業の実施手法		事業協力					
実施の時期	通年				事業開始年度		平成24年度					
今後の方針		特記事項										
平成30年度事業費	予算額		132		決算額					(単位：千円)		
事業の概要・目的	啓発活動により、より多くの市民に、廃棄物の課題を認識していただき、ごみの減量及び3Rの促進に取り組んでいただく。											
目標指標	指標名		キャラバンへの参加者数の増加									
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32				
			目標値	600	600	600	600	600				
			実績値	396	570							

平成30年度実施計画	奈良市内の公民館を回り、ごみの分別・減量や3Rの実践活動の広報する講演会を開催していく。 また、参加者によるロコミ等も利用し、市民によるごみ減量のアイデアを募集し、活用していく。希望があれば、小規模型の開催も積極的に実施していく。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少してきた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	57	事業名	陶磁器製食器類リユース・リサイクル事業			
部名	環境部		課名	環境政策課		
総合計画上の位置付け	章	第4章	生活環境		展開方向	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥

No.	58	事業名	なら・まちかど景観発掘隊					
部名	都市整備部		課名	景観課				
総合計画上の位置付け	章	5章	都市基盤		展開方向	④ 協働による景観まちづくり		
	基本施策	5-02	景観			地域の貴重な景観資源を発掘し、それを市民一人ひとりが活用できる景観施策を推進します。		
	施策	5-02-01	奈良らしい景観の形成					
相手方の名称	自治会・ボランティア団体			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成22年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		239		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	自治会やボランティア団体と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募り、街歩き計画を立て、街歩きを通じて私たちの住む街角にある、ちょっとした素晴らしい景観スポットを発掘する。これを景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。							
目標指標	指標名		活動団体数の増					
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	2	2	3	3	4
			実績値	1	1			
平成30年度実施計画	地域団体の方々と市との協働により、なら・まちかど景観発掘隊と題し一般の方々を募集し、街歩きを案内する。その中で景観スポットを発掘するワークショップを行い、地域の景観資源として蓄積し、観光や街の活性化につなげていく。また、その成果を周知することにより、活動団体の増加を図る。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	59	事業名	違反広告物を出さない街づくり推進団体					
部名	都市整備部		課名	景観課				
総合計画上の位置付け	章	5章	都市基盤		展開方向	④ 協働による景観まちづくり		
	基本施策	5-02	景観			景観まちづくり市民組織の結成、育成を支援するとともに、各組織のネットワーク化を図ります。		
	施策	5-02-01	奈良らしい景観の形成					
相手方の名称	自治会・2名以上のボランティア団体			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成16年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		343		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	古都奈良にふさわしい景観となるよう、道路などに掲出された違法な簡易広告物を市民の方々に除却していただき、その活動を通じて地域の景観を守る意識を高めていただく。							
目標指標	指標名		活動団体数の増					
	単位	団体	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	38	46	54	62	70
			実績値	43	47			
平成30年度実施計画	しみんだよりや市ホームページによる広報に加え、関係団体にも積極的に働きかけ、活動団体数の増加を図る。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	60	事業名	グリーンサポート制度					
部名	市民活動部		課名	協働推進課				
総合計画上の位置付け	章	第5章	都市基盤		展開方向	① 公園・緑地の管理や運営の多様化		
	基本施策	5-06	公園・緑地			公園ボランティア制度やグリーンサポート制度などを活用し、市民等との協働による公園・緑地の管理運営を推進します。		
	施策	5-06-01	公園・緑地の整備					
相手方の名称	自治会等地域の団体			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成20年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		13,504		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民が公園を快適かつ安全に利用できるようにするとともに、市民の自主的な活動の推進を図る。							
目標指標	指標名		グリーンサポート制度による公園管理率					
	単位	%	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	32	34	36	38	40
			実績値	28	31			
平成30年度実施計画	情報紙「りろば」の発行やしみんだより、ホームページの広報活動等により市民への周知に努め、団体数の増加を図る。また、活動に参加する等して集めた団体の声を基に、手続き方法の改善や公園維持管理活動の推進・拡大を図っていく。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	61	事業名	なら燈花会開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光		—			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 なら燈花会の会			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	8月5日～14日			事業開始年度	平成11年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		10,000		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため、奈良公園内の7カ所の会場で毎夜約300人を超えるボランティアの人力によって20,000個のろうそくを灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた夏の祭典として、なら燈花会を開催する。							
目標指標	指標名		期間中の来訪者					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
			実績値	911,000	108,333			
平成30年度実施計画	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ、公共施設へのチラシ・ポスター設置等を通じ、ボランティア募集を積極的に展開する。また、「なら燈花会支援会議」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	62	事業名	ガイド付きツアー					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	②	観光客受入体制の充実		
	基本施策	6-01	観光		着地型観光(目的地である着地側で企画する観光)の内容の充実と、広報の強化に努めます。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら・観光ボランティアの会			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	7月・8月・12月・1月を除く通年			事業開始年度	平成22年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		200		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様に歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。							
目標指標	指標名		ガイドツアー参加者(集客)の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績値	638	601			

平成30年度実施計画	観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様に歴史の残る奈良を歩いて、学び、楽しんでもらう。
------------	--



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。								
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。								
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。								
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。								
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。								
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。								
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。								
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。								
評価点									0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	63	事業名	しあわせ回廊～なら瑠璃絵～開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光		オフシーズンである冬の時期に「珠光茶会」や「しあわせ回廊なら瑠璃絵」を開催し、1年を通じて観光客が訪れる観光資源を育てます。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら瑠璃絵実行委員会			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	2月初旬～中旬			事業開始年度	平成21年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		8,000		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	春日大社本殿、東大寺大仏殿、興福寺東金堂の夜間拝観の実施や、奈良国立博物館の夜間開館、三社寺をつなぐ奈良公園内におけるLEDライト等によるあかりの演出などを行う。							
目標指標	指標名		期間中の来訪者					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
			実績値	386,000	369,000			
平成30年度実施計画	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ等を通じ、PRを積極的に展開する。また、「なら瑠璃絵推進委員会」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努める。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも書えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	64	事業名	バサラ祭り開催事業					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光					
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人 バサラ衆			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	8月末			事業開始年度	平成10年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		1,500		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	「バサラ祭り」は市民参加型の祭りで、それぞれ工夫を凝らしたコスチュームを着たダンスチームが各会場を踊りながらパレードを行うものであり、奈良の夏の顔の一つとして実施する。							
目標指標	指標名		期間中の来訪者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
			実績値	27,000	30,000			
平成30年度実施計画	来訪者を増やすため、事業実施について協議し、実行委員会と共に、ポスター・チラシ、観光ウインドー等で広報活動を行う。また円滑な運営のため、開催期間中は参加車両の駐車場等で協力する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	65	事業名	月ヶ瀬梅林周遊道路整備					
部名	建設部		課名	道路建設課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光			梅林周遊道路の整備を行い、観光ネットワークのひとつとしての環境整備を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	梅林周遊道路改修委員会			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成17年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		50,000		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	地元自治会選出の代表をメンバーとして設置された「梅林周遊道路改修委員会」と調整及び協議を図りながら、名勝「月ヶ瀬梅林」を周遊する道路を整備し、地域住民の利便性を向上させるとともに、観光客の安全と地域観光の活性化を図る。							
目標指標	指標名		道路の整備延長 L=1280m					
	単位	m	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100	100	100	100	106
			実績値	88	0			

平成30年度実施計画	事業実施に伴う用地取得について、早期に各権利者と調整しながら取得に向けた交渉を進める。尚、H29の実績が「0」となっているが、L=140mを繰越したためである。(6月末竣工予定)
------------	---



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。								
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。								
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。								
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。								
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。								
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。								
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。								
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。								
評価点									0	0

総合点	0	総合評価					
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)			A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	66	事業名	転害門前観光駐車場の運営					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	① 観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光			歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。		
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	ミディ総合管理株式会社			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		2,920		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	観光客及び市民の駐車場の便宜を図るために駐車場を設置し、指定管理者制度にて運営管理を行う。							
目標指標	指標名		駐車利用台数の増					
	単位	台	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	5,400	5,500	6,724	6,900	7,000
			実績値	5,970	6,625			
平成30年度実施計画	月報の報告時など指定管理者と定期的に情報共有を行うとともに、たびたび現地への訪問も行う。施設の安全性、利便性の向上及び利用促進並びに経費節減に努め、利用者に喜んでいただける駐車場にするための管理運営を行う。							



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の評価	協働相手の評価			
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。											
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。											
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。											
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。											
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。											
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。											
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。											
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。											
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。											
評価点									0	0			
総合点		0							総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)									A評価 90～76	B評価 75～61	C評価 60～46	D評価 45～32	E評価 31～18
行政の意見					協働相手の意見								
協働によって得られた効果													
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど													

No.	67	事業名	奈良市ならまち格子の家					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光		伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	ならまち格子の家指定管理者コンソーシアム		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成18年度(指定管理者制度導入年度)				
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		4,208		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	ならまちの伝統的な町家を再現し、観光客及び市民の観覧と利便に供するとともに、町並み保全に資するために格子の家を運営する。							
目標指標	指標名		入館者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100,000	105,000	100,000	115,000	120,000
			実績値	100,390	95,383			
平成30年度実施計画	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の 評価	協働相手の 評価			
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。											
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。											
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。											
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。											
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。											
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。											
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。											
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。											
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。											
	評価点									0	0		
総合点		0		総合評価									
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)				A 評価		B 評価		C 評価		D 評価		E 評価	
				90～76		75～61		60～46		45～32		31～18	
行政の意見						協働相手の意見							
協働によって得られた効果													
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど													

No.	68	事業名	奈良町からくりおもちゃ館					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光		伝統芸能や工芸など体感・体験できる体制を整えます。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	特定非営利活動法人からくりおもちゃ塾奈良町		協働事業の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年		事業開始年度	平成24年度				
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		6,990		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	明治初期の雰囲気が残る町家の空間のなかで、からくりおもちゃを介して、訪れていただいたお年寄りや子どもたち、観光客などの世代間交流や地域間交流の場として活用することにより、ならまちの活性化及び奈良市の観光振興の拠点とするために奈良町からくりおもちゃ館を運営する。							
目標指標	指標名		入館者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	52,000	52,500	50,000	51,000	52,000
			実績値	46,227	40,972			
平成30年度実施計画	地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	69	事業名	旧鍋屋交番きたまち案内所						
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課					
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実			
	基本施策	6-01	観光		歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。				
	施策	6-01-01	観光力の強化						
相手方の名称	鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会			協働事業の実施手法	委託				
実施の時期	通年			事業開始年度	平成24年度				
今後の方針	特記事項								
平成30年度事業費	予算額		213		決算額	(単位：千円)			
事業の概要・目的	奈良町のきたまち地域を訪れる観光客の利便を図るとともに、地域の活性化による観光振興に寄与することを目的として、まちかど観光案内所を設置する。								
目標指標	指標名		来館者数の増						
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
			目標値	10,000	10,500	6,000	6,500	7,000	
			実績値	5,999	4,716				
平成30年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先適宜情報交換や協議の場を設けながら実施する。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高める。								



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点		0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	70	事業名	史跡・名勝をめぐるウェルカムサービス～知って奈良とびらガイド～					
部名	観光経済部		課名	観光戦略課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	②	観光客受け入れ体制の充実		
	基本施策	6-01	観光		事業者・市民が奈良の歴史・文化を学び、奈良の魅力の理解の下、もてなしの心の醸成により、来訪者への充実したサービスの提供を図ります。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	なら・観光ボランティアガイドの会			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成25年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		100		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	奈良市へ転入の届け出を行った世帯に、無料でなら・観光ボランティアガイドの会による観光案内を行う。							
目標指標	指標名		期間中の来訪者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	50	50	50	50	50
			実績値	11	10			
平成30年度実施計画	転入届出窓口等で、積極的なPR活動に努める。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	71	事業名	奈良市きたまち転害門観光案内所運営事業					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光		歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	転害門前旧銀行跡建物活用協議会			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成25年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		1,677		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	旧南都銀行手貝支店である奈良市所有の町家を改修し地域の団体と協働して、きたまちの観光客に対する観光案内や、観光資源の発掘及び調査研究、地域活性化の拠点などとして多目的に利用できる観光案内所として運営する。							
目標指標	指標名		来館者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	10,000	10,500	10,000	10,100	10,200
			実績値	9,353	8,103			
平成30年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施する。また、きたまち活性化イベントを共同で開催し、きたまち地域の魅力を発信し、施設の認知度を高める。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	72	事業名	奈良町南観光案内所運営管理					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光		歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイレや案内看板等の環境整備を図ります。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	有限会社くみの木			協働事業の実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		26,300		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							
目標指標	指標名		来館者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	50,000	50,500	51,000	51,500	52,000
			実績値	30,522	31,855			
平成30年度実施計画	案内所の運営にあたっては、委託先と適宜情報交換や協議の場を設けながら実施し、奈良町の魅力を国内外に発信しながら、奈良町南観光案内所への誘客を促進する。また、駐車場の運営にあたっては、施設の安全性や利便性の向上に努めながら、案内所と一体的な活用を行う。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	73	事業名	奈良町にぎわいの家運営管理					
部名	観光経済部		課名	奈良町にぎわい課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済	展開方向	①	観光資源・施設の整備・充実		
	基本施策	6-01	観光		昔ながらの暮らしや伝統文化が体感・体験できる体制を整えます。			
	施策	6-01-01	観光力の強化					
相手方の名称	奈良町にぎわいの家管理共同体			協働事業の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成27年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		16,560		決算額		(単位：千円)	
事業の概要・目的	奈良町を訪れる観光客、奈良町に暮らす住民、奈良にゆかりを持つ多くの人々が集う、奈良町に息づく歴史文化の発信拠点、にぎわい創出の拠点とするために奈良町にぎわいの家を運営する。							
目標指標	指標名		来館者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	100,000	105,000	97,500	98,500	100,000
			実績値	96,018	93,247			
平成30年度実施計画	指定管理者と定期的に情報共有を行うことで、より良い施設運営を行う。また、奈良市から積極的に観光情報を提供し、地元の方と、地域に根差したより良い観光案内を行うとともに、指定管理者による自主事業の充実を図る。							



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の 評価	協働相手の 評価			
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。											
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。											
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。											
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。											
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。											
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。											
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。											
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。											
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。											
評価点									0	0			
総合点		0		総合評価									
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)				A評価		B評価		C評価		D評価		E評価	
				90～76		75～61		60～46		45～32		31～18	
行政の意見						協働相手の意見							
協働によって得られた効果													
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど													

No.	74	事業名	奈良工芸フェスティバル					
部名	観光経済部		課名	産業政策課				
総合計画上の位置付け	章	第6章	経済		展開方向	③ 産業の支援と地域経済の活性化		
	基本施策	6-04	商工・サービス業			奈良の伝統工芸と伝統産業の継承・発展のため、制作体験やイベント、インターネットを通じて情報発信を行い、工芸品等の販路拡大に努めます。また、緊急の課題である伝統工芸の後継者問題については、研修制度等により育成を支援します。		
	施策	6-04-01	商工・サービス業の振興					
相手方の名称	工芸作家			協働事業の実施手法	共催			
実施の時期	年1回			事業開始年度	平成元年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		543		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	毎年、秋期の正倉院展期間中に合わせて、なら工芸館では「奈良工芸フェスティバル」を開催し、一刀彫・赤膚焼等の工芸作品の特別展示、制作実演・体験などを通じて、奈良工芸に対する理解と認識を深める。また工芸品を期間中、特別販売することで工芸の振興発展に努める。							
目標指標	指標名		来場者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	6,300	6,350	6,400	6,450	6,500
			実績値	5,453	5,515			
平成30年度実施計画	平成30年度は工芸フェスティバル30周年の節目の年となるため、特別企画展を実施する等例年よりも充実した内容となるよう工夫を図る。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	75	事業名	「奈良しみんだより」の英訳		
部名	総合政策部		課名	広報戦略課	

総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進	展開方向	①	市政情報の提供
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有		市政情報入手についての市民ニーズの把握に努めるとともに、しみんだよりやホームページなど多様な広報手段を利用し、それぞれの特色を生かして連携することで、有効な情報発信を行います。	
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進			

相手方の名称	奈良S.G.クラブ		協働事業の実施手法	事業協力	
実施の時期	毎月		事業開始年度	-	
今後の方針		特記事項			
平成30年度事業費	予算額	120	決算額		(単位：千円)

事業の概要・目的	日本語が分からない外国籍市民等に市政情報をお知らせする。							
目標指標	指標名	配置部数						
	単位	部／月	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	190	190	190	190	190
			実績値	198	195			

平成30年度実施計画	行政は「奈良しみんだより」の掲載情報・資料を提供する。また印刷用紙を支給する。完成した英語版しみんだよりのPDFを市ホームページに掲載する。 活動団体は「奈良しみんだより」の英訳、英語版の印刷・編綴、各施設への配置、PDFでの市への提供を行う。
------------	--



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
					自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた	少しできた	どちらとも言えない	あまりできなかった	できなかった	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点		0	0

総合点	0
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)	



総合評価				
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	76	事業名	まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」					
部名	市民生活部		課名	月ヶ瀬行政センター 地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	② 市政に対する提言、要望等の反映		
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有			「新市建設計画」を着実に実施し、月ヶ瀬地域振興協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をまちづくりに反映させます。		
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	各種団体・自治会等			協働事業の実施手法	実行委員会・協議会			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成17年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		1,700		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	月ヶ瀬地域における将来のまちづくりについて協議を行うほか、地域の振興等を図り。もって奈良市の発展に資する。							
目標指標	指標名		会議の開催回数					
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	24	24	24	24	24
			実績値	13	14			
平成30年度実施計画	行政として、イベント補助金の交付、市・県等関係課及び機関等への連絡調整、協議会事務局として支援を行う。活動団体としては、地域のまちづくりに関することや新市建設計画に伴う要望活動、進捗状況に関することの会議の開催、地域伝統文化の保存及び振興に関すること、地域イベント等の企画及び実施に関すること(夏まつり・スポーツフェスティバル・体育祭・マラソン大会)等を行う。							



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目						行政の評価	協働相手の評価		
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。								
	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。								
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。								
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。								
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。								
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。								
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。								
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。								
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。								
評価点						0	0			
総合点		0				総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)						A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
						90～76	75～61	60～46	45～32	31～18
行政の意見						協働相手の意見				
協働によって得られた効果										
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど										

No.	77	事業名	都祁まちづくり協議会					
部名	市民生活部		課名	都祁行政センター地域振興課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	② 市政に対する提言、要望等の反映		
	基本施策	7-01	市政情報の発信・共有			新市建設計画を推進するため、都祁まちづくり協議会の活動を通じて、市政に対する提言、要望等をならづくりに反映させます。		
	施策	7-01-01	開かれた市政の推進					
相手方の名称	地域住民(都祁まちづくり協議会)			協働事業の実施手法	補助・助成			
実施の時期	通年			事業開始年度	平成17年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		3,500		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	1. 住民要望の取りまとめ及び新市建設計画の進捗に関すること。2. 地域間交流事業(農業体験交流事業)3. 地域振興事業(都祁高原マラソン大会)							
目標指標	指標名		利用者数の増					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1,600	1,620	1,640	1,660	1,680
			実績値	1,487	1,596			
平成30年度実施計画	都祁地域の自治会・自治連合会へ協力を呼びかけ、住民要望の取りまとめを行う。地域交流事業として、農業体験交流事業を実施、4月に参加者を募集し、5月から茶摘体験、スズラン・ホテル自由観賞、ブルーベリー採り、収穫体験、吊るし柿・しめ縄作り体験と1年をとおして農業体験をしてもらい地域間交流を図る。まちづくり活動においても地域振興事業の一環として市内外からの参観者を迎え11月に都祁高原マラソン大会を実施予定。都祁の名を全国各地に発信し地域活性化に繋げていく。							



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目								行政の 評価	協働相手の 評価			
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。											
5 4 3 2 1 ← ← → → できた 少しできた どちらとも 言えない あまり できなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。											
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。											
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。											
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。											
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。											
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。											
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。											
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。											
評価点									0	0			
総合点		0							総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)									A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
									90～76	75～61	60～46	45～32	31～18
行政の意見					協働相手の意見								
協働によって得られた効果													
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど													

No.	78	事業名	地域の未来についての懇談会				
部名	市民活動部		課名	地域活動推進課			
総合計画上の 位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	①	市民参画及び協働の推進
	基本施策	7-02	市民参画・協働			市長が地域に向かい、地域活動に取り組む各種団体と対話を行い、地域の課題に対する認識を共有し、協働して解決に向けて考える場として、「地域ミーティング」を開催し、地域と行政が協働して、住みよいまちづくりの実現のために取り組みます。	
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営				

相手方の名称	奈良市自治連合会			協働事業の実施手法		共催		
実施の時期	通年			事業開始年度		平成２５年度		
今後の方針		特記事項						
平成３０年度事業費	予算額		0		決算額		(単位:千円)	
事業の概要・目的	市長が直接地域に出向き、地域活動に取り組む各種団体の役員と対話を行う中で、地域課題に対する認識を共有し、地域・行政が協働して解決に向けて考えていくことを目的に、平成25年10月から「地域ミーティング」を実施。平成29年度に開催手法の見直しを行い、平成29年12月からは、地区単位ではなく奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長が地域を訪れ、地区の主要四団体の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化を図ることを目的に「地域の未来についての懇談会」として開催している。							
目標指標	指標名		開催地区数					
	単位	地区	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	30	35	40	41	42
			実績値	23	25			

平成30年度実施計画	平成29年度に4ブロックで「地域の未来についての懇談会」を開催。平成30年度も引き続き「地域の未来についての懇談会」を開催し、奈良市自治連合会の全10ブロックでの開催が一巡した時点で検証を行い、改めて実施手法の見直しも含めて検討する予定である。
------------	--



平成３０年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
←	←	→	→		自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
					評価点			

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	79	事業名	HUG ² (はぐはぐ)祭り					
部名	市民活動部		課名	協働推進課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	① 市民参画及び協働の推進		
	基本施策	7-02	市民参画・協働			市民参画と協働によるまちづくりを総合的・計画的に推進するために、本市で実施し、又はこれから実施しようとする協働事業を実施計画として策定した「奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画」に基づき、市民参画と協働を進めていきます。		
	施策	7-02-01	市民との協働による市政運営					
相手方の名称	市民公益活動団体			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	5月～12月			事業開始年度	平成26年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		49		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	市民に、ボランティアや市民公益活動団体の様々な活動について知っていただくとともに、その魅力を伝え、ともに活動したり支援したりするきっかけをつくり出すこと、また市民公益活動団体の情報交換や交流の機会創出を目的に、ボランティアインフォメーションセンターにおいて、HUG ² (はぐはぐ)祭りを開催する。							
目標指標	指標名		HUG ² 祭り参加者数					
	単位	人	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	660	695	730	765	800
			実績値	770	744			
平成30年度実施計画	HUG ² (はぐはぐ)のサポーター団体を募集し、5月よりサポーターズ会議を月に1回開催し、市民公益活動団体と職員で協議を重ねていく。 企画の段階から準備、祭り当日の運営及び進行も市民公益活動団体と職員と協働で行い開催する。							



平成30年度 事業評価					協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
					対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5	4	3	2	1	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	←	←	→	→	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった					自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
					目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
					相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
					公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
					期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
						評価点	0	0

総合点	0	総合評価				
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		

No.	80	事業名	租税教室の開催(講師の派遣)					
部名	財務部		課名	市民税課				
総合計画上の位置付け	章	第7章	基本構想の推進		展開方向	① 健全な財政運営		
	基本施策	7-04	行財政運営			財源確保への取組を強化し、財政基盤の安定化を図ります。		
	施策	7-04-01	効率的な行財政運営					
相手方の名称	奈良税務署管内 租税教育推進協議会			協働事業の実施手法	事業協力			
実施の時期	11月～1月頃			事業開始年度	平成20年度			
今後の方針	特記事項							
平成30年度事業費	予算額		0		決算額	(単位：千円)		
事業の概要・目的	国、奈良県、県内市町村、学校教育機関及び関係民間団体等で組織する奈良県租税教育推進連絡協議会事業の一環として、奈良税務署管内 租税教育推進協議会が開催する租税教室に職員を講師として派遣する。							
目標指標	指標名	市職員の講師派遣を継続して行う						
	単位	回	年度	H28	H29	H30	H31	H32
			目標値	1	1	1	1	1
			実績値	2	3			

平成30年度実施計画	講師の派遣を希望する小・中学校、高等学校、専修学校と調整しながら、派遣職員の育成を行い、事業を実施する。
------------	--



平成30年度事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の評価	協働相手の評価
	対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。		
5 ← 4 ← 3 → 2 → 1 → できた 少しできた どちらとも言えない あまりできなかった できなかった	相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。		
	自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。		
	自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。		
	相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。		
	公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。		
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。		
	期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。		
評価点			0	0

総合点	0	総合評価					
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点数を2倍して算出)			A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
		90～76	75～61	60～46	45～32	31～18	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど		